

スズメバチ（後編）

深川医師会
深川市立病院

だいた ころ
代田 剛

決行、戦闘開始を8月4日午後8時と決めた。幸いというかその日は雨模様で、夜のとぼりは早めに下りた。漆黒の闇の中での戦闘ならスズメバチの反撃も少ないだろう、と期待したが、なんせ住宅地なのであちらこちらから光は漏れ届いている。防護服を着るのに少し手間取った。それはキャップを被ったとき、頭の大きさを調節する部分が小さすぎて私の頭に合わないのである。高校入学時に既製では合わず、オーダーの学生帽でなくては入らなかった頭の大きさなのだから。それから顔を通そうとすると首の部分が狭いので眼鏡が落ちてしまうのである。これはこの部分のチャックを緩めてうまくいった。予行演習をしておけば良かったと思った。戦国武将として鎧兜を戦闘に出る直前に初めて着けるのはあり得ないことで、戦国武将として失格であることを悟った。何とか全身を防護服、厚い手袋、長靴で身を固め、右手にマグナムジェットプロを、左手に懐中電灯を持ち巣の前に立った。マグナム缶に印刷されている使用方法は、風上のまず3m程離れた所から噴射を始め、そのまま近づき1m程の所から噴射を続けるとある。これでは私は生ぬるいと判断し、市の係員から教わった1cmにならなくても、出来るだけ巣の出入りに射出口近づけ発射することにした。マグナムの射出時間は最長45秒である。その時間で勝負をつけなくてはならない。懐中電灯を向けると予想に反してスズメバチが出入り口から出てくるのである。午後8時を回ってもスズメバチの就寝時間とはなっていないようである。やっぱり手ごわい相手である。懐中電灯を消し、そっと出入り口から数センチメートルと思われるところまで射出口を近づけマグナムを発射することにした。1cmまで近づけたかったが暗い中で射出口を巣に当て振動を与えては元も子もないのである。厚い手袋なのでマグナムの引き金の孔に指を入れるのにちょっと手間取った。そして静かに引き金を引いた。ジューとかかなりの音とともに射出口から勢い良く霧が噴射された。説明文は10秒以上とあるので20秒くらいは噴射した。一度止めたがスズメバチからの反応はなかった。懐中電灯をつけて出入り口を照らしたがスズメバチの出入りはなかった。出入り口の直径は1cm程のものが3cm程に拡大していた。再度同じ長さくらいの時間出入り口に射出した。マグナムを置き、両手で巣をつけ根から外した。何らスズメバチからの反応はなかったので、用意した箱に納め終了した。

翌日後片づけをした。ベランダの床に12匹のスズメバチの死骸が散らばっていた。巣を割ってみるとおおよそ35匹が死んでいた。そして蜂巢の中に小さなものから大きなものまで蛹が約50匹つまっていた。これらが孵っていたらこの一族は100匹となり、そ

うなると巣の大きさも25cmを超え、マグナムでの除去は不可能となり専門業者に頼まなくてはならなくなったであろう。マグナムにそう印刷されていた。朽ち果てた枕木に数匹のスズメバチがたむろしていたのもうなずける。あの蛹が孵れば巣を大きくしなければならず、建材として使っていたのである。スズメバチは死後硬直？のためか腰が曲がり正確に大きさを測るのは困難であるが、16～22mmくらいであった。ひときわ大きいのが1匹いて、28mmであった。女王蜂なのだろう。これで終了と思うとホッとした。今はお盆に入る少し前であるが、2023年夏は記憶に残る夏となるであろう。例年にない暑さとともに経験のないことをしたことで。

後日談

後日近所の人と世間話をする機会があった。駆除した話をしたところ、ご近所の〇〇さんの家に数年前スズメバチが大きな巣を作り、業者に3万円で除去してもらったとのことであった。除去してもスズメバチはすぐには立ち去らないとも言っていた。そうなのである。我が家もその後枕木に数匹が留まっていたり、飛び回っているのを見た。市の係員に電話で聞いたところ、近くに別の巣があるとか、離れた所からも飛んでくるからと言われた。スズメバチの行動範囲は半径500mとも言っていた。刺激しないようしていたが、ある日トウキビにアブラムシがついているのを発見し、農薬を噴霧した。その作業中私の前に数匹のスズメバチが飛んで来た。すぐに逃げたが時すでに遅く、ズボンの上から大腿を刺されてしまった。熱さを持つ電撃痛である。噴霧剤が流れスズメバチを刺激したのであろう。その後の1週間はつらかった。2023年夏の記憶にさらに一つを加えてしまった。



駆除されたスズメバチと、巣の外被を外し巣盤があり、中にびっしりと幼虫と蛹が詰まっている